



今こそ乗務員はどうあるべきかを捉え返し 社会に信頼される輸送サービスを提供しよう!

2024年の夏季手当の明細が手交されています。この間本報-本社間で交渉を行い、組合要求に対して会社は低額の2.7割と回答しました。現場で奮闘した社員の労に応えないのが如く低額回答で抑えつけたと言わざるを得ませんが、現場の努力で好業績をつくり出したのは紛れもない事実です。本来ならば、会社は社員の努力に対して労を引続き安全・安定輸送に努めていくのがありべき姿であり、決してこの半年間あなたは何を頑張りましたか、という個人努力を助長させて、あなたも個人で頑張らないと夏季手当はもらえない、などの誤解を生み出すような経営姿勢は許されるものではありません。

その最中、業務用タブレットで動画を視聴しながら運転する事象やワヤレスイヤホンで音楽を聴きながら運転する事象が発生し、ネットニュース等でも明らかになりました。とらまやではいけないことだと認識しながら発生させた事象です。業務上のヒューマンエラーとは違い、やではいけないことを認識して(意図的に行)たことは不祥事であり、労働組合として守ることができません。しかしながら、労務管理を強め、対策ならざる対策を押し付けてきたが故に、多くの不祥事が生み出されていることも現実です。この現実に向き合わない限り負の連鎖は止まりません。現在全乗務員に対して個人面談が行われていますが、根本的な解決に繋がるとは考えられません。なぜならば、今「乗務員とはどうあるべきか」が問われているからです。そして、私たちは乗客の「命」を運んでいます。大ごとが乗務員としてどうあるべきかを向き合わない限りは事故・事象は続きます。

高輪ゲートウェイ構想をはじめとした大規模開発、生活サービス事業が殊更重視され、鉄道業が軽視されている現状では、人命や危険に対する意識は高まるはずもなく、「人身事故を聊輸した、他区の区報のように、間違えたことに対して管理者含め誰も気づけない、指摘できない一般常識から外れた職場が次々と生み出されてまいります。今こそ鉄道業の専門性を重視した人間力・現場力が蓄積された「輸送サービスのプロ」として社会から信頼される安全な鉄道を実現しなければなりません。

一方、施策の歪みにより、度重なる事故・事象の発生でJR東日本の安全は危機的状況です。大田運輸区においても昨年度から夏季の休日出勤が常態化しています。そして「相互運用」も担い始めている中で、組合員が「運転士の車掌業務」に応募しても線見が開始されない一方、線見が終わった社員が後に異動するなど本来転倒的な状態が起きています。

今、私たちに求められていることは「地域社会から信頼される安全・安心な輸送サービスが提供できる輸送サービスのプロ」の育成です。今後、「統括センター」の発足、「ワンマン運転」等の施策で私たちが取り巻く労働環境は大きく変わりつつありますが、安全と輸送サービスレベルが低下するような施策ではありません。

まもなく夏季輸送を迎えます。インフルエンザの影響もあり、鉄道利用者が戻り始めています。これからますます暑い日が続きますが、体調管理に気をつけて、私たちの力で「地域社会から信頼を得られる安全・安心な輸送サービスを提供しよう!!」

2024年 7月1日
JR東日本輸送サービス労働組合
大田運輸区分会

大田運輸区分会で発出！公共交通機関を担う使命と
責務を自覚し、安全で安心な輸送サービスを提供しよう！